



のびのこちゃん

あ お だ け



たけまるくん

令和4年8月26日 9月号

なにごと あ まえ 何事も当たり前ではないこと

こうちよう いまむら きみこ
校長 今村 公子

3 7日間の夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。

思い返してみると、一昨年の夏休みは、コロナ禍最初の夏休みで、各地のお祭りや花火大会が中止になり、ステイホームの静かな夏でした。昨年の夏休みは、これまでにない感染拡大となり、夏休み明けは3日間の臨時休校と分散登校での始まりとなりました。そして、今年の夏休みは、昨年以上のこれまでにない感染者数になりましたが、行動制限はなく、感染防止策を取りながらの生活となり、夏休み明けは通常通りに学校が開始されることになりました。コロナ禍ということに変わりはないですが、このように対応や生活は同じではなく変化しています。わたしたちはその都度の状況をとりえながら、柔軟に対応し適応していかなくはなりません。学校が始まり、子ども同士や教職員が顔を合わせ、ともに学ぶことができるという今ある日常は、決して「当たり前」ではなく、その有難さを改めて感じます。

また、今ここにある日常、わたしたちに与えられている時間は、一瞬一瞬の積み重ねです。その時間や共に生活する人とのかかわりを大切にして、様々なことを体験したり、感じ取ったりして子どもたちが成長することを願っています。

9月は、4、5年生は宿泊体験学習、6年生は修学旅行を予定しています。当日を迎えるまで、どのような状況になるかわかりませんが、まずは一人ひとりが体調管理をしっかり行い健康に過ごすことが準備の一つになります。それには、周りの人の協力も必要です。食事、睡眠などにも気を付けていきたいものです。

「日々の生活に感謝の気持ちを持ち、人とのかかわりを大切にし（協力し合い）、今の状況や自分の心をありのままに受け止め、しなやかに前向きに取り組む」、そのような子どもたちに育つよう、これからも教育活動が充実したものになるよう工夫してまいります。

まだまだ暑い日が続くでしょう。熱中症にも気を付け、本校の子どもたちが元気よく学び続けていくことを期待しています。